

## 令和6年度第1回小牧市立図書館選書委員会会議録

1 開催日時 令和6年8月26日（月）午後3時30分～午後4時45分

2 開催場所 小牧市中央図書館 4階 多目的室

3 出席委員 委員長 長谷川 裕城  
副委員長 丸山 真由美  
委員 関戸 祥子  
〃 奥村 理恵  
〃 白木 泰子  
〃 布施 江利子

### 事務局

岩本館長  
花里係長  
平山  
宮崎  
寺西

傍聴者 0名

4 議題 (1) 選書について  
(2) その他

5 会議資料 次第 選書資料（資料1・資料2）

### 6 議事内容

(1) 選書について

選書資料1 『国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの』について

結論：不可

【丸山副委員長】不可

困ってしまったのですが、私の中にこの本を読む引き出しがなくてどうしようかと思いましたが、かろうじて空海は知っていました。高野山と東寺を行き来した本ということはなんとなくわかりました。松鶴堂さんというところが文化財の修理保存をしている会社であることもわかりました。修理の様子はすごくセンシティブで技術が必要で、とて

も価値のある事だと思うのですが、私が読んでも良くわからなかったので不可にしてしまいました。

【長谷川委員長】可

自分も面白い本だとは思いました。修理の話が半分くらいあって予想とは違ったので。修理したところから歴史的な何かが見えてきたとか、宗教的な何かが見えてきたとは思ったのですが、本当に（単純に）修復の仕方とかが書かれていて。でもああいった技術やそういう部分は残していく必要があるのだろう、だから大事な本なのだろうなという感じはすごく受けました。大事な本で、図書館にあって良いとは思っています。ただ、昨年度の選書委員会でも似たようなことがあったと思うのですが、じゃあこの小牧市図書館にあるべきかというのはよくわかりません。この本が図書館にあったときに、この本を誰かが探しに来るのだろうか、ということをしごく悩んで。これは他の本にも言えることなのですが、ここにあるよということをしごくやって世間に知らせたらよいのか、ということがありました。館長さんがはじめに言われた目的（サービス計画に記載の「あらゆる世代の市民の要望を反映し、基本的・入門的なものから、必要に応じて専門的なものまで幅広く収集する」「収集方針に基づき市民ニーズや地域の現状・社会動向を把握して選書する」）からするとどうなのだろうと思いつつ、ぜひこういう本が図書館にあって、市外の人も含めて見に来るような図書館になるといいなというのもあって可にしました。

【布施委員】不可

私は結論から言うと不可です。例えばこの6冊の中で自分の専門があって、それが専門分野のところに1冊あれば絶対に読みたいなと思うのですが、（この本は専門的すぎて）専門の方でも誰が手に取るのだろうと思いつつ、どういう方が、このマニアックでピンポイントなここに焦点を当てられたものを読むのだろうと思いつつ、修理から見えてきたものは何だったのかが私にはわからなかったで、私の知識が浅いとも思いますが興味が湧いてこなかったで、感覚的なものですが、私は不可です。

【関戸委員】可

すいません、不可の方が続いた後ですが、私は可です。装丁も値段のわりに軽いと思つたのですが、こういう柄なので良いかなと思つて。内容としては、カラーの写真が多用されていて修復の様子が非常によくわかるので、私としては、最近本丸御殿の修復や古文書の修復を聞きかじっているからちょうど自分のなかで修復のブームが来ていた

のもあり、この本があったら私はぜひ読みたいと思いました。遅ればせながら本丸をみて「ほう」と思い、修復のことを聞きかじりしたので、私の中ではぜひ所蔵してほしいです。利用頻度は低いだらうとは思いますが、ただ、今までのこの（類本の）貸出数をみると、0が多かった他の本に比べ、国宝修理の分野は割と借りられている。数字は少ないけれど他のものに比べたら貸出があるのではないかなと思ったので、可です。

**【奥村委員】** 不可

私も不可にしました。知識が浅いものですから国宝三十帖冊子というものも知りませんでしたし、遠い世界のもので、私は写真を見てもなにがどうなっているかが理解できませんでした。わかりにくいのかなと思ってしまいました。

**【白木委員】** 不可

不可とおっしゃったお三方とほとんど同じ意見で、私も不可です。国宝を維持する大切さとか大変さを学ぶことは良いことなのですが、私もまったく興味がわかず難しいというか。この本を私がみる機会はないだらうなと思いつつ、もちろん先ほどの関戸さんみたいな方はたくさんいらっしゃるので大事な存在ではあるのでしょうけれども、私個人としては、そのような意見のため不可です。

**【長谷川委員長】**

不可が4名ということで過半数を超えていますので、本会では不可ということで話し合いました。

**選書資料2 『捕虜収容所・民間人抑留所事典 日本国内編』について**

**結論：可**

**【白木委員】** 可

まずタイトルが捕虜とか抑留とか戦争に関するもので興味を持ちまして、確かに難しく字も小さくて読みにくいのですが、歴史を正確にとどめて、写真も丁寧に掲載されていて図書館に置いてほしい図書だと思います。可です。

**【丸山副委員長】** 可

私も可にしました。収容所がこんなにあったということに驚きました。お茶の水に文化学院という建物があって、門しか残っていないのですが素敵なカルチャータンみた

いな建物で、そこも実は収容で使われてたということが今わかりまして、「へえ」と思いました。なんであんなに素敵な建物を壊してしまったのだろうと今更ながら思い出していました。個人的な感情も含め、可にさせていただきました。

**【長谷川委員長】可**

私も可にしています。中を見てすごく細かくたくさんの収容所について書かれていましたし、そこで起きた事件だとか建物の配置だとかの地図も古いものが資料として残されていたりだとかいうことで、今だんだん戦後長くなってきて、残していく必要のある資料でもあるし、市民の方が近くの図書館でたまたまでも手に取ってもらえるといい本だなと感じて可にしています。

**【布施委員】可**

私も可です。タイトルでまずつい手に取って見てしまうのではないかと、なんだろうって興味を持ったり。色々な資料も細かく載っていたし、私も全然本当に知らなかったのてこんなにたくさんあるのだなど。こういうもので資料として残していかないと口伝えではもう限界があり、リアルなものを残していくというのは大事だと思いましたので、可です。

**【関戸委員】可**

私も結論から言うと可にしました。やはり内容的に非常に凶だとか色々な人からの証言や色々なことが入っていたので。戦争の資料というのは今ギリギリ残しておけるものだと思います。どんどん無くなっていってしまうものだと思うので、こういうものはぜひ蔵書として入れていただきたいなと思って、可にしました。

**【奥村委員】可**

私も可にしました。本当にこんなに日本中にたくさん収容所があったことを知らなくて驚きましたし、伝えていきたいと思いました。たまに地域のニュースで地元のことは聞くことがあるのですが、全国的な規模のものとしては知らないことばかりでしたので、残していきたい、伝えていきたいと思いました。

**【長谷川委員長】**

全会一致で可ということで購入をお願いします。

### 選書資料3 『源氏物語古筆の世界』について

#### 結論：可

【奥村委員】可

難しかったのですが、可にしました。知らない内容なのですが、古筆からというか、書いてある文字の資料から源氏物語をさらに深く読み解く内容でしたので、私には難しいのですが、所蔵して良い資料なのかなと思いました。

【白木委員】可

私も可にいたしました。丁寧に解説されていることと、墨で書かれた書に興味を感じましたし、また源氏物語の世界を違う角度から学ぶことができると思います。

【丸山副委員長】可

私も可にしました。本の帯に「ツレ」を中心にと記載されているけど、そもそも「ツレ」がわからなくてどういう意味だろうとひとしきり考えていたのですが、結局答えはわからなかったです。単純に見て美しくて気持ちがいい。あと源氏物語は人気があるのできっと手に取ってくださる方もいるのではないかなと思いましたので可にさせていただきました。

【長谷川委員長】可

私も可にしています。源氏物語だけではなく、それに関わるさまざまな文献や書が載っていて。本物の写真も載っていて文学だけじゃなくて書の資料としても価値があるのだろうとか、びっくりしたのは最後の方に古筆切の500倍の断面という繊維の状態を写すとか、本当に色々なことをこだわって作られているものだなというのがあった。やはり源氏物語は手に取る人も多いただろうし、色々な方に興味をもっていただく資料なのではないかなと思いました。

【布施委員】可

私は可です。やはり今流行りの「光る君へ」の関係で、源氏物語と書いてあるところで。源氏物語は主語がなくて原文で読んでも分かりにくくて、漫画とかで読まないで最初ストーリーとしてわからないので。それが本当の古文で書いてあり、元がこういうものなのだと見たときに全然分からなくても、「そういう内容なのね」ということの取っ掛かりにできるのではないかと。大河でやっているようにすらすら書いている和歌が実際にこういうふうになっているのだということがわかるから、読み解くのはすごく難しいけれ

ど、触れるということは良いと思ったので、可です。

【関戸委員】可

私は文字を楽しむという意味で個人的にとっても好きな本なので、できたらもっと大きな版であったら嬉しいなと思い、もしあったらなと思いましたがなさそうなので、でしたらぜひこれとと思っています。ただ本当に源氏物語の研究に役立つ本なのかなとは少し疑問に思う。そうなるかと公共図書館での利用頻度はどうなのかなとちょっと迷っていたのですが、皆さんが可にしてくださったので、私も可でいきたいと。文字を楽しむだけでも良いのではないかと思いました。

【長谷川委員長】

では可として全会一致ということでお願いいたします。

#### 選書資料4 『感情と思考の科学事典 新装版』について

結論：可

【関戸委員】不可

ひとことで言って、難しい。わかる言葉を引いてみるとこういうことなのね、と面白いのですが、蔵書にして利用されるのかなとすごく疑問に感じました。同じような検索ワードの本は貸出履歴があるのですが、それは事典ではなくて読み物としての本なので。事典ということはこの資料は禁帯出ですよ？そうなるこれがどのくらい役に立つのかなっていうのがあり、私は不可にしました。

【奥村委員】可

私は可にしました。新装版っていう10年前の本が新装になっていて、類書でというか検索ワードであまり事典として同じようなものがないので。借りられない参考図書になるのは残念な気がしますが、読みごたえはあるのではないかと思います。

【白木委員】可

私も可にしました。まずこのタイトルに惹かれました。感情と思考を科学の観点から見た事典という。文字が小さすぎて読みにくいのですが、興味を持つ人には内容も充実しているので現代には必要な文献なのかなという気がします。

【丸山副委員長】可

私も可にしました。知っている単語をいくつか調べてみたのですが、私事ですが昨年保育士試験を受けまして、丸暗記であまり理解せずに覚えていた言葉を今引いたら初めて理解できて。例えば、「アタッチメント」は「ボウルビィ」と覚えていたのですが、調べてみると「愛着障害」とかをくっつけて覚えることで、やっと理解が染み込むということがあったので。この本があることを知っていれば、シナプスのように知識が繋がり深まっていくのかなと思ひまして、私は図書館に欲しいなと感じました。

【長谷川委員長】不可

私は逆に不可にしました。事典ですごく詳しく載っていたり、文献もしっかりしていて事典としてすごくいいのですが、手元に置きたいので、借りられないというと難しいのかなというところで不可だと思いました。

【布施委員】可

私はわくわくでしかなくて。心理学をやっていたというのもそうなのですが、最初からずっと読んでいてめちゃ面白いと思いました。感情と思考は認知なので、この資料のように論理的なものが一緒になっているというのが全部読みたいので。でも借りられない？

【関戸委員】

事典だから借りられない、ということに限らないですよ？読み物としても使えるし。

【事務局】

実際に貸出禁止にするかどうかは、今はわかりませんが、参考図書という分類にはなります。今こういったご意見がありましたので、貸出可とする方向で検討をさせていただきます。

【長谷川委員長】

ということで2名が不可ということではありましたが、そのお二人についても本の価値はあるとのことでしたし、購入可ということをお願いしたいと思います。ぜひ借りられるような形でお願いします。

## 選書資料5 『古代オリエント人名事典』について

### 結論：可

#### 【布施委員】可

迷ったのですけれど可にしました。興味関心の差が激しすぎるのですけれど、私の中で西洋史という引き出しがあまりないです。ただ好きな人には内容としては分かりやすく具体的なエピソードも面白く書いてあったので、このオリエントやこの時代が好きな人には、私が先ほどの資料4にハマったように楽しめるのかなという意味で可にしました。

#### 【関戸委員】不可

なんだこれという感覚で不可なのですが、パラパラと知っている人を辿っていったら3人ぐらい繋がったのですがそこで私の知識は終わってしまったので。古代オリエントという言葉には惹かれるのですが、中を見ると私の中では不可です。

#### 【奥村委員】可

私は可にしました。私もわからないのですが、読みやすいというかわかりやすく書いてありましたし、ギリシャ人名事典があるならオリエント人名事典があってもいいのではと思いました。

#### 【白木委員】可

私も可にしました。まずシンプルに読みやすいです。字面というか。プラス古代オリエントにも興味があったら最高に面白いのではないかと思います。現代にも語り継がれている大切なことが学べるので、これはあってもいいかなと思いました。

#### 【丸山副委員長】不可

私は不可にしてしまいました。決して嫌いなわけではなんですが。アケメネス朝ペルシアやアレキサンダー大王など結構好きなのですが、読んでもつかみどころがないとか。そういう西洋史学科を受ける人向けの参考書みたいな感じで。図書館にあるべきなのかなと思ったのですけれど、さっき白木委員がおっしゃったとおりギリシャ人名事典があるのならばオリエントがあっても良いのかなと思いますが、不可にしました。

#### 【長谷川委員長】不可

私は不可にしています。最初は面白そうだなと思って手に取ったのですが、あとすごく

たくさんの人物が載っているなど感心もしたのですが、よく見るとしっかり書かれている人はその中のごくわずかで半分にも満たなくて、本当に2、3文くらいししか書いてない方が多かったですね。逆にそんなにたくさんの人の文章を書いたら頁が足りなくなってしまうのでしょうか。それと、途中から地図になっていって、地図もいいが、世界史を高校で習ったときは人と人との繋がりが楽しかったので、例えば系譜の図があるだとか、王朝同士の繋がりが分かるだとか、そういった中で人物の繋がりがわかると広がっていく、そんなような事典があったら可にしたという感じがします。人名が五十音順に並んでいるので同じ王朝の中でもバラバラで、自分の中で読みづらかったというのが正直なところで、不可にしました。

**【長谷川委員長】**

ということで今ちょうど3人ずつ割れていますが、また意見をさらに出していただくか、意見を変えられる方はいますか。このまま割れている状態であれば可で良いかなと思います。僕らよりも図書館の方々が選んでくれたこともあるので価値は絶対にあると思います。いかがですか。

**【奥村委員】**

人名事典なので長谷川先生がおっしゃるような人と人との繋がりとかは、また違う本で読んでいただいて。この本は「この人は誰」ということを知る。そこに深みがないとおっしゃるのもわかりますが。

**【関戸委員】**

これこそ貸し出し不可ですよ？

**【白木委員】**

これもなんか借りたい感じですよ。

**【関戸委員】**

好きな人はこの本を見てあっち行ったりこっち行ったりして、複数の本を読み比べてみたら面白いかもしれないですよ。

**【長谷川委員長】**

でも貸出不可とは限ってはいないですよ。きっと。

それでは、ご意見を変える方がいないので購入する方向でよろしいですか。では購入でお願いします。

## 選書資料6 『大宅壮一文庫に見るコロナ・パンデミック』について

### 結論：不可

【長谷川委員長】可

自分の中では可にしました。最初は何なのだろうと正直思ったのですが、帯を見てコロナについての基礎資料の入口にと書いてあったり、文芸作品を作ったりドキュメントを作るときの資料にするために作られてあったり。中をみていくと、ほとんど雑誌なんです。雑誌の中で本当ならどこかへ行ってなくなってしまうような雑誌の記事を集めて1つの資料にしているスゴイものだなと思いましたので、ぜひ蔵書としていれてほしいと思い、可にしました。

【布施委員】不可

迷っています。すごく強い意志があるわけではないのですが、コロナをテーマにした番組を制作するような人にはありがたい本なのだろうけれど、そういう人が図書館に借りにくるのかなと。こういう資料があるよ、普通の人もコロナでこんなことがあったよねと振り返る機会がこの本を見てあるのかなと。写真や図もないし、あのときは本当になんだったのかよくわからなかったのも、そういうこともあったと読みながら、振り返るのかと。ちょっとあとになって番組をつくる時には必要にはなるかとは思いますが、図書館に要るのかなということで迷ってはいるのですが、一応不可で。

【関戸委員】不可

私も不可にしました。内容も量も膨大かつ細かいが、ただ紙ベースで必要なのかなとちらっと思って。こういうものってウェブのデータベースがすごく充実していないのかななど色々なことを思うと、これを小牧の図書館におく必要性がどのくらいあるかなと思いきり不可にしました。「雑誌だと資料として残らないのではないか」と長谷川委員がさっきおっしゃったのを聞くと迷いはあるのですが、ひとまずこの程度（の内容）なら、データベースか何かあるのではないかとということで、不可にしました。

【奥村委員】不可

私も不可にしました。迷ったのですが、やはりネット検索で調べられる内容なの

ではないかと思って。それこそ制作や何かの資料で調べようという人は、まず本よりもネットで調べるのではないかと思いました。でもそう試みていくとだんだん面白いな、こういう風になっていって色々なところで取り上げられていったのか、という。検索する書籍というよりも読み物として面白いと思う自分もいてすごく悩ましいですが、私の結論としては不可にしました。

**【白木委員】可**

私は可にしました。一見、俗に言う週刊誌であるサンデー毎日や週刊ポスト、フライデーなどそういうことまできちんと書いてあって、コロナは歴史に残る出来事でこれをネットで検索するのは違いそうだなと思い、奥村さんと同じように面白かったので、こういうものが図書館にあるのは大切かなと思ったので、可にしました。

**【丸山副委員長】保留**

皆さんのご意見を聞いているとすごく揺れるのですが、私は保留にさせていただきました。以前、テレビ局で番組制作の仕事をしていました。こういうものが欲しいときは国立国会図書館で調べることもあるのですが、これがあったら便利だったな、体力と時間の節約ができたなと考えながらみていたんです。一番最初に出てくる記事が2020年のニューズウィークから始まって、最後は東洋経済なのがすごく象徴的だなと思いました。ニューズウィークの日本版がまず取り上げて、日本がそのあと騒ぎになって最終的に経済へ波及していった流れが面白いなと思っていました。でもこれは公共図書館じゃなくても大宅壮一文庫に行けばいろいろ見せてくれるし、19,800円だし、これが9,800円だったら欲しかったけど、と庶民的なことを考えてしまって、保留です。どちらかというとな不可寄りの保留です。

**【長谷川委員長】**

保留だとしても、不可の方が多いいということですね。可は2人だけですし、不可が3人ということなので、不可ということで皆さんよろしいですか。それでは続いて議題2、その他へ行きたいと思います。

**(2) その他**

**【長谷川委員長】**

連絡事項・報告事項等はありませんか。

連絡事項等ないようですので、事務局へお返しします。

**【事務局】**

長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。

第2回の選書委員会は1月頃を予定しておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

これをもちまして、令和6年度第1回小牧市立図書館選書委員会を終了いたします。本日はご多忙のところありがとうございました。